



長後だより編集委員会
藤沢市長後 513
Tel 44-1622
発行責任者 野渡 訓

ちようごだより

月刊
2017年3月号
(平成29年)
No.459 最終号

48年の歴史は未来への道しるべ

「長後だより」終刊に寄せて

◆人をつなげる

街づくりに貢献

藤沢市長 鈴木 恒夫



このたび、48年の時を経て、「長後だより」

の幕が下ろされることは、大変さびしく、また、誠に残念であります。

しかしながら、編集委員の皆様におかれましては、昭和44年の創刊以来、長きにわたり、地域に根ざした様々な情報を発信され、地域の皆様からの賛助金または広告料により、「毎月発行、無料での全戸配布」を継続されてこられました。皆様の活動とご労苦に対し、深く敬意を表します。

さて、地域でのコミュニケーションの希薄化が叫ばれる中、近所で顔の見える付き合いを大切にし、支え合える関係を築くことが、子育て、防犯や防災、高齢化などの様々な課題解決に繋がるものと思っています。本市では、様々な主体とのマルチパートナーシップのもと、地域の皆様が、夢や希望、元気を実感していただ

けるよう、人がつながる、人をつなげるまちづくりに取り組んでまいります。皆様には、引き続きお力添えをいただきたいと思っております。

「長後だより」に関係されたすべての方々に改めて感謝を申し上げるとともに、長後地区の限りなくご発展、並びに皆様のますますのご活躍とご健勝を祈念しあいさつといたします。



えにし 縁の桜にきざす春

これからも明るい街であり続けますよう

◆取材記事を集めて

自治会連合会会長



市川 勤
私の手元に、平成七年の

「ちようごだより」があります。(246号1995年6月号)当時の自治会長の紹介記事、市民集会運営委員の紹介もあります。サラリーマン生活一筋の毎日、長後

藤沢総合高校の誕生などその紙面スタイルは変わらぬ。また、毎号、独自取材記事をとくさん継続し発行され伝統を守ってこられた、編集委員の皆様には並大抵のことではなかったと思います。惜しまれてなりません。長い間本当にありがとうございました。

◆新たな機関紙の

誕生を期待して

社会福祉協議会会長



長後地区の地域の機関紙として「

長後だより」は地域活動や街の暮らしや自然や文化・歴史と、その時々の地域の様子取材し、手作り毎月発行して各世帯に配布してきましたがこの3月号で終刊となります。

昭和44年7月に住みよしい長後の地域づくりを推進するため各家庭とを結ぶ機関紙として創刊され、今日まで48年の長期に渡って発行が続けられたのも、長後だより編集委員会に關わっていただいた方々や、取材と編集に關わった編集委員の皆様のご努力によるものと感謝する次第です。平成も29年、発展的にと

とらえ、若い世代の方々による、新たな地域コミュニケーションの機関紙の誕生を期待します。

◆長後の

「いま」を伝えて

長後だより元編集委員長



齋藤 善夫
諸般の事情にて「長後だより」3月

号持ちまして終刊となります。地域の皆様、温かいご支援に感謝申し上げます。平成22年3月、神奈川県に、創刊40周年の交流をとりあげられ「いま」を伝えて40周年、藤沢長後の地域情報紙!と大きく報道されました。記事によると『8人のボランティア編集委員が、取材、レイアウト、印刷まで、一切こなし、賛助会員を募ってご支援をいただき、文字通りの手作りの「いま」が専門家により、伝えられた』とあります。長後だより携わった編集委員皆様の並々ならぬご苦勞、尽力に深く感謝申し上げますと共に、各理事の積極的な協力、支援、地域の皆様によるご支援に、改めて心からお礼申し上げます。第です。「住み良い街・長後」を合言葉に刷新されることを、祈念いたします。

たてよこに織りなす米で歴史を紡ぐ

～ 1969 - 2017 ～

終刊に寄せて 皆様の声

読者の皆様から多くの寄稿をいただき、厚くお礼申し上げます。
*いただいた原文をそのまま掲載しました。

☆

戸塚ミヨ子

このたび長後だより終刊のお知らせを聞き大変残念に思いました。

今まで編集に携わって下さった皆様には常に地域の歴史や新しい事象に着眼し取材、編集を続けて48年、このご努力に絶大な賞賛と感謝を申し上げます。

☆

勝俣豊次郎

一九九六年、将棋する会員を集めるのに告知板を度々活用、集まった会員45人以上。とても活用させていただきました。

終刊になるのはとても残念です。編集員の方お疲れさまでした。

☆

A・T

48年間続いた地元広報紙の終刊は大変残念に思いますが、ふるさと祭りではお手伝いさせて頂きました。

人との繋がりを感じさせてくれた、手作り感満載の長後だよりに携わってくださった方々、お疲れさまでした。

☆

M・I

長後だよりの終刊を知り、大変残念に思います。長後に生まれ育った私ですが、長後だよりをじっくりと読むようになったのは、結婚をし、

子育てをし、地域との繋がりが出来てからでしたが、身近なニュースを興味深く拝見したものです。

近頃、目が回るスピードとあふれる程の情報の渦の中で、月に一度届く手作りの長後だよりは、身近なニュースと共に、どこか暖かさを感じる貴重な存在でした。長い間ありがとうございました。

☆

池田みどり

街の移り変わりや人々の暮らしを掲載して48年、長後の歴史を綴った大切な財産になりました。後世に引き継がれていくことでしょうか。携わった皆様、本当に有難うございました。

☆

元編集委員 M・T

他市から移り住み、子供が小学校入学を機に編集員となり、30数年携わりました。取材を通して街に愛着が生まれ、出会った仲間は生涯の友になり、かけがえのない時を刻むことができました。感謝でいっぱいです。

☆

下土棚のみーちゃん

物心ついた頃からテーブルの上にあった長後だより。歳を重ねるごとに身近になり、情報を得るのにももちろん、時には情報を提供したり掲載していただいた事もありました。当たり前のようにあつた長後だよりが終刊するとの事、本当に残念です。長年にわたり長後の街中を歩き回り記事にしてこら

れた皆さま、本当にお疲れ様でした！そしてありがとうございました！！

☆

匿名希望

長後で残念なこと
①市内で最も開発が遅れている事。現在では「高座渋谷」と「湘南台」の谷間にあってしまいました。
②近い内に急行電車も止まらなくなってしまうのでは。
③地下鉄が湘南台に行ってしまうこと。
④道路が狭くて危険な事。

これらの問題が長い間になぜ解決できないのか、不思議です。これらの解決のために「長後だより」に期待していたのですが残念です。

☆

匿名希望

長後に住んで45年、初めは何という田舎だろうと感じたものです。家の周りは畑ばかり、風が吹けば砂埃、艦載機の騒音、とんでもない所に来たものだと寂しくなりました。

そんな中での地域情報誌「長後だより」を楽しみにしていました。今回残念ながら「終刊」を迎えるとの事、残念です。当たり前に有ったことが無くなるという事はさびしいものです。いつの日か再開されることを楽しみにしています。

☆

匿名希望

昭和43年、この地に移り住んで「長後だより」と共に

この街の歴史を見て来ました。終刊、残念です。理事さん出番ですよ！

☆

田場川善雄

「長後だより」は地区内の行事や出来事がわかり毎月楽しみにしていました。また「わがまち再発見」や「ちよご今昔Photo」などは郷土の歴史の勉強も出来て良い企画でした。

感謝とお礼

編集委員長 野渡 訓

私は平成6年に編集委員の委嘱状を授与されました。題字がひらがなの「ちよごだより」に変わった時でした。改めて48年間、広告料と賛助会費を頂いた読者の方々に感謝とお礼を申し上げます。有難うございました。

副委員長 井上 廣男

昭和44年の創刊以来、長きにわたり皆様に親しまれてきました「長後だより」が終刊となりました。

歴史と伝統のある紙面を自分の代で閉じてしまうという展開に、今改めて複雑な思いに駆られます。

副委員長 井上 哲夫

長い歴史のある長後、そこから生まれる地域の話題など、この48年という足跡は後世に残り、きつと役に立つと思います。長後で生まれ育った一人として、今後の地域の発展に繋がることを

半世紀もの長い間、ご苦労様でした。

☆

M・K

長い間、地域の方々に親しまれた長後だより。少ない人数で、ボランティアとして紙面の企画から入稿、印刷までこなしていた編集委員の方々のご苦労は、いかばかりか。本当に疲れさまでした。

祈っています。



多くの編集委員が思いを繋いで

長後だより編集委員会

委員長 野渡 訓

副委員長 井上 廣男

理事 井上 哲夫

安田宗弘・市川 勤

齋藤善夫・三尾茂子

澤野勇次・鈴木康代

渡貫直正

編集委員 鈴木紀子・亀谷みゆき

清水茂代・柚原秀子

井上美紀子・綿谷由純

伊礼清子・須賀しのぶ